

## 人間らしく働くための2018 ふくおか宣言

私たちは、2018年11月10・11日の2日間にわたり福岡市で、「第29回人間らしく働くための九州セミナー」を開催し、九州・沖縄を中心とした地域から700名の参加を得て大きな成功を収めました。

昨年の熊本セミナーの成果を受けて、2018年2月14日に現地実行委員会を結成し、働く人の健康をめぐる現状を議論しつつ基本コンセプトづくりをすすめました。議論の中で関心を集めたのが、安倍政権が強行する雇用破壊、生活破壊、社会保障制度改悪の結果、貧困と格差は今までになく拡大し、「健康格差」が進行しているということでした。

そこで、今年のセミナーは、基本コンセプトを『アベ「働き方改革」を打ち破り、健康を創る働き方を目指そう。働く人びとの健康を決定する社会的決定要因と対策』、としました。セミナーの議論を通じて、働く人びとの健康はどのような社会的決定要因に基づいて作られているかを明らかにし、その処方を考える中で健康を取り戻す運動の契機にしたいと考えました。

開講講演では、「健康の社会的決定要因」として代表的なものは所得、教育、雇用、職業、住宅、交通、連帯、社会扶助であることと、健康の維持増進には、生活習慣などの個人的要因への介入だけでなく、「健康の社会的決定要因」への介入が不可欠であることを学びました。

記念講演では、残業大国の日本の現状、「残業時間規制」の虚実、課題山積の「同一労働同一賃金」、「個人請負」の深い闇について、取材をもとにしたリアルな講演を聞きました。現在の労働現場の耳を疑うような劣悪な実態を聞き、安倍働き方改革の問題点を深く学ぶとともに、人間らしい働き方への転換を求める運動を広げる必要性を強く感じました。

パネルディスカッションでは、労働組合、自営業者、弁護士、医師のパネラーにより、外国人労働者や「雇用によらない」働きかた、自営業者の労働環境の問題などについて議論しました。こうした「働く人びとの健康を決定する社会的要因」への対策には、「健康の自己責任論」を克服し、働く人すべてが「連帯」していくことが解決の鍵なることが強調されました。

分科会は、3つの特別企画と5つの分科会で、87本の報告があり活発な討論が行われました。特別企画Aでは、労災職業病の被害者（過労死・過労自殺、アスベスト）の救済・支援について総合的な議論が出来ました。特別分企画Bでは、医療現場で健康の社会的決定要因の把握し、個々の患者支援に努力している経験が交流されました。特別企画Cは、外国人労働者（実習生）の働き方と健康をテーマに開催されました。政府の骨太改革で外国人労働者の受け入れ拡大が社会の注目を集めています。しかし、すでに現在日本にいる外国人労働者が人権を阻害されたなかで働いているという報告から、その問題解決こそ優先すべきだという事が確認できました。さらに、本企画が特筆すべきなのは、医学、歯学、

社会保障、教育学、法学と多分野の学生達が集まり、学生プロジェクトとして半年余りの時間をかけた成果を発表した点です。未来の労働者になる、学生たちの学びは、これからのセミナー運動にとっても貴重な財産になることでしょう。

ふくおかセミナーの 2日間で「学び・調査し、行動する」一貫した活動である「セミナー運動」の大切さを実感し、人間味ある魅力的な運動として進めていくことへの確信をつかむことができました。

参加者一人一人が、今回のセミナーで学んだ知識と、語り合った情熱で、職場・地域での活動を飛躍させ、人間らしく働き、暮らせる職場・社会の実現を目指して行きたいと思います。セミナー運動がさらに大きく羽ばたく事を誓い、セミナー宣言とします

2018年11月11日

第29回人間らしく働くための九州セミナーin ふくおか